

七小校長室便り

国立市立国立第七小学校

校長室便り No.1 令和元年 7月5日

梅雨がやってきましたが、そのさなかの日光移動教室は写真のように1年生が作って全6年生と引率者にプレゼントしてくれた、かわいいてるてる坊主の力もあってか、ほぼ全ての行程を無事に終わらせ元気に帰校することができました。特に戦場ヶ原ハイキングの日はこの季節でこれだけ爽快な日は珍しい、と現地をよく知るガイドさんが言うほどの良いお天気でした。

ただ、実は1日目には霧^{もぎ}がかかり見られなかった華厳の滝を2日目の計画に入れ込んだため、足湯体験はカットしたのですが、何人かの子供たちから「足湯ダメなのか・・・」と寂しそうな声が聞こえ、これには「そんなに足湯を楽しみにしていたの？」と意外な感じがしました。6年生の保護者の皆様、機会があればぜひお子さんを足湯にお連れください。

さて、この校長室便りはこのように私の目や心に留まった子供たちの様子や、保護者の方々にお知らせしたいことなどを、不定期で情報発信していきます。どうぞよろしく願いいたします。



ありがとうございます、てるてるくん!

運動会アンケート、ご協力ありがとうございました

まず、児童の協議・演技について、「十連休後だが完成度が高かった」「応援合戦も楽しめた」「一人一人が本当に頑張っていて感動した」というお褒めの言葉をたくさんいただきました。ミストシャワー、児童席のタープ設営、校舎内の一時開放などの猛暑対策にもたくさんのお礼、取組への評価の言葉をいただきました。数日前から日一日と変わる最高気温予報に気をもみながら、とにかくできることを全てやろうと考えて実施しました。また、運営にも保護者の方のご協力をたくさんいただき、特に時間のかかるテントの収納をととてもスピーディに終えることができました。アンケートには、「当日用事があったので、お手伝いできず残念、来年はやります!」という、嬉しいお言葉もいただきました。

さて、その他いくつかアンケートでいただいた内容とその対応についてお答えいたします。(アンケートの文面は、趣旨を変えず簡略化しています)

☆「来年度もタープを張ってほしい」⇒気温に関わらず、児童席のタープは張る予定です。「ゴールが倒れたら怖い」とのお声もありましたが、留め具を複数打ち込んでありますので、大丈夫かと考えています。用具係児童席にも来年はテントを設置します。

☆「低学年の児童の引き取りはしないほうがいい」⇒今年とはとにかく異常な暑さとなり、それまで午後の授業と一度も経験していない1年生や、まだ体力も十分でない2年生を児童管理の教員だけで細やかに見ていくことは難しいと考えて、閉会式まで保護者の方の管理のもと過ごし(体力的にそれが無理であれば下校も可)、整理運動から再度集合、と考えての対応でした。趣旨が伝わりにくくご迷惑をおかけしました。あそこまでの気温にならなければ来年は例年通り、自席で参加させます。

☆「体育館は朝から開放してほしい」⇒見回り等の職員の確保が難しいため、昼食時の先行場所取りなどのトラブルが心配です。今年度同様に午後から開放の予定です。

☆「低学年の表現の音声が途切れ、かわいそうだった」⇒申し訳ありませんでした。その中でも健気に踊ってくれた子供たちにはありがとう、の気持ちでいっぱいです。来年度は、音楽に関しては校内放送室から、アナウンスは校庭から、と二か所から放送します。

裏面もご覧ください

☆「呼名のない事、電子音ピストルは運動会らしさにかける」⇒呼名については、個人情報の保護、時間の短縮、間違っ呼んでしまったときの影響の大きさ等から来年もする予定はありません。なお、お褒めの言葉もいただいた走順のプレートと、レース順のアナウンスは来年も実施、電子音ピストルは来年導入3年目ですので、成果と課題を踏まえその後検討します。

☆「立ち見席の人が乗り出すととても見にくかった」「校庭前花壇で喫煙している保護者がいた」「撮影場所の譲り合いがなく残念だった」⇒・・・実は、昼食会場にした1階の教室や体育館で、床に食事が出たごみが落ちていたり、黒板にいたずら書きをしていたり、ということがあり、前記の内容と共に、見回りの人員も割けない現状では来年度の対応をどうしようか苦慮しています。学校からのお願い事項への保護者の方のご理解・ご協力をお願いいたします。

☆～☆

これ以外にも様々なご感想、ご意見をいただきました。総じて、学校の教育活動を、温かく見守ってくださることが伝わってきて、ありがたく思いました。

その中でも今回、私が「ああ、そう思ってくださっている方のお声が聞けた！」と嬉しくなったご感想があります。

それは「七小の校歌はととてもすてき。大好きです。何度も聴きたいです。」といったもの（複数いただきました）。ご存知の方も多いと思いますが、国立第七小学校の校歌は、作詞が詩人の谷川俊太郎さん、作曲が息子の谷川賢作さんと、平成19年に制定されたものです。歌い方を指示する発想標語は「愛にあふれた優しい気持ちで」。メロディが半音ずつ上がっていったり、一番と二番の歌詞が混同しやすかったり、という難しさはあるのですが、私も初めてこの校歌を聴いた時に、本当にすてきな曲だなあ！と感動したのを覚えています。保護者の方のエールを励みに、子供たちにもこの校歌の良さを、「自慢」として思えるように、歌わせていきたいものです。

子供たちのいる風景・・・

4月ころ朝学校を回っていると、水飲み場で髪の毛に一生懸命水を付けている男の子と、それを脇で見守っている6年生女子に遭遇。私の不思議そうな視線に気付いたのか、すぐにその女子が「あ、この子今、寝癖を直しているんだそうです」。お世話係で毎日1年生の教室に言っていたころのことなのですが、一心不乱に寝癖直しをしている男の子と、それをひたすら（少し見守っている6年生の女子がとても微笑ましく、印象に残っています。

そんな1年生の中には、やはりその頃、私に向かって「校長先生！」と呼んでくれた子がいました。

「はい、なあに？」と返すと「校長先生なんだ・・・」というリアクション。その時の彼の気持ちは今でも謎です。園長ではなく？でしょうか。それとも「本物だ」かな？まさか・・・

そんな彼らも今では、私にしっかりと自分たちから「お早うございます！」とあいさつし、真剣に文字を書いたり、計算をしたりする立派な「小学生」になりました。

最後にこれは本校の子供たちではないのですが、国立駅で耳にした低学年の子供たちの会話です。「ゴジラって、何でも食べるんだよ」「そうなの？じゃ、地球も食べるの？」「そうさ！地球はゴジラのごちそうなんだぜ！」・・・いいなあ、確信をもったその言い方！子供の世界って本当にすてきです。

